

## 5. 学生サークル活動

### 5-1 宇都宮大学環境改善学生サポーター (ECHO)

農学部 3年 近藤克哉

私たちは、宇都宮大学の教職員と協働しながら、大学を基点とした環境活動を行う学生環境団体です。学生ならではの自由な発想と知見を活かして活動することを理念に活動を行っています。

#### ■活動紹介

##### 1. 学内環境プロジェクト

昨年度から今年度にかけて、サークル棟のゴミ箱の環境改善に取り組みました。これまでは分別がしっかり行われてなく、ごみが散乱している箇所も見受けられました。そこで改善策を皆で話し合い、数を増やし、散乱防止のために蓋つきのゴミ箱に取り替えました。このほかにも学内のゴミ収集庫の環境改善にも取り組んでおり、ゴミ分別が学内のどこでもしっかり行われるよう、日々活動しています。

##### 2. エコ学祭プロジェクト

大学祭「峰ヶ丘祭」におけるゴミの排出量の把握や減量の対策の考案、エコ容器販売、学祭参加者への環境啓発活動を継続して行っています。学祭来場者に可燃物、不燃物、ビン、カン、ペットボトル、ペットボトルキャップ、割りばし、リ・リパック(Dappy!!)、食べ残し、きれいなプラスチックの10分別に、新たに雑誌類と今まで可燃物として処理していた汚れたプラスチック(産業廃棄物)ゴミの2分別を加え、12分別でゴミの分別指導を行いました。

また、大学祭期間中に出た種別毎のゴミの計量や出展団体、地域の方々からの廃食油・古着の回収なども行いました。回収された廃油は業者に委託しバイオディーゼル燃料へとリサイクルされることで自動車の燃料などとして再利用され、古着は企業を通して発展途上国に送られます。

##### 3. 環境系イベントへの参加、実施

私たちの活動を地域の方々を知っていただくために、12月上旬に行われた「ECO テック&ライフとちぎ 2016」という宇都宮市の環境系イベントで展示発表をしました。

イベントでは、ECHO が作成した冊子物やリ・リパックの実物を展示し、ECHO の様々な活動についてパネルを用いて説明しました。参加するにあたり、ECHO メンバー各人が展示物やパネル内容の説明ができるように練習を積み重ねました。その結果、ECHO の活動を広く周知することができ、メンバー各人の知識も深めることができました。

また、昨年度から新しい試みとして、8月上旬に宇都宮市オリオン通りにてゴミ拾いを実施しました。夕方2時間ほどの時間を使い、メンバー同士で楽しみながら行えました。学内の環境美化だけでなく、近隣地域にも目を向けることができたと感じています。

#### 4. 環境シラバスの発行

宇都宮大学の様々な講義の中から「環境」について学びことができる講義を取り上げた小冊子「環境シラバス」を作成しています。環境シラバスには、各講義を担当する講師の方々からお聞きした、その講義で環境についてどのようなことが学べるか、学んでほしいか、といった講義の目的を掲載しています。

この環境シラバスは、学務部と協力して作成し、1年次オリエンテーションの際に新入生に配布しています。



#### ■ 今後の展望と課題

宇都宮大学内の環境を良くするためには、学生一人ひとりが環境に対する意識を持ち、行動する必要があります。そのような意味で私たち宇都宮大学環境改善学生サポーターECHO は先陣を切って学生を引っ張っていき、一人でも多くの人にエコ意識を高めてもらう働きかけをするという使命があります。学生という立場を十分に活かしながら、私たち以外の環境系サークルや教職員と協働し、皆が快適に過ごせる環境を目指して、様々な解決案を提案し、学内の環境を改善していきたいと思えます。

主な環境系講義一覧（環境シラバスより抜粋）

講義名	代表教員名等	学部等
環境と国際社会	高橋 若菜	基盤教育
実践・宇都宮のまちづくり	宇都宮市環境部職員	基盤教育
環境と生物化学	池田 幸	基盤教育
地球環境と化学	木村 隆夫	基盤教育
農業と環境の科学	斎藤 潔	基盤教育
生物資源の科学	平井 英明	基盤教育
環境教育	松居 誠一郎	基盤教育
里山のサスティナビリティを考える	松居 誠一郎	基盤教育
森林生態学	大久保 達弘	農学部
環境評価システム論	菱沼 竜男	農学部
基礎土壌学	平井 英明	農学部
用排水処理技術	酒井 保蔵	工学部
大気概論	酒井 保蔵	工学部
環境基準論	長谷川 光司	工学部
応用化学概論	辻 正道	工学部
応用化学特別講義	辻 正道	工学部
環境工学基礎	諸星 知広	工学部
環境と国際協力演習	高橋 若菜	国際学部
環境と国際協力	高橋 若菜	国際学部
地球環境政策論	高橋 若菜	国際学部
ジェンダー論	バーバラ・モリソン、他	国際学部
住環境論	陣内 雄次	教育学部
環境と国際協力	高橋 若菜	教育学部

LOMO は、学生の環境に対する意識の向上を目的として活動している環境系ボランティアサークルです。

#### ■活動紹介

LOMO では、卒業生から不用になった家具、家電などを回収し、新入生や留学生向けに格安で販売するガレージセールを行っています。この活動は、ゴミの不法投棄などの環境問題に対して学生として行えることはないか、といった考えのもと平成18年より始めました。

回収作業は、回収依頼をメールでいただいた後、大学からリヤカーを借りて直接回収先まで伺っています。回収した品は、掃除および点検を行い、LOMO の部室前で販売を行っています。

昨年度は 25 人の方から 93 品を頂き、販売を行いました。昨年度から、より多くの人に利用してもらうため、例年の2月下旬から4月上旬の販売に加え、月に1回販売を行い、回収は期間を問わず受け付けています。



回収の様子



販売の様子

#### ■今後の展望

これまでの活動を通して、新入生や留学生を中心に多くの人に利用していただき、環境に対する意識の改善につなげることができたと感じています。今後も、回収および販売方法の改善や SNS の活用によって、より多くの方にガレージセールを利用していただきたいと思います。また、昨年度行えなかった紙パックの回収や自転車の回収、新しい企画などについても検討し、環境についての意識向上のためより活発な活動を進めたいと考えています。

## 5-3 宇都宮大学生協学生委員会(C.C.S.)

農学部 3年 井東蒼亮

工学部 2年 齋藤徳仁

私たち宇都宮大学生協学生委員会(C.C.S.)は、学生全体を巻き込み、環境に対する意識を持ってもらう、そのことにより、環境を改善していくことを理念として大学生協と協力しながら活動しています。

### ■活動紹介

#### 1. 使用済み割りばしの回収およびリサイクル

宇都宮大学生協では、購買および食堂で使用している割りばしに『樹恩割りばし』を導入しています。この割りばしは国産の間伐材を利用しており、リサイクルすることで『パーティクルボード』という床や壁の下地材に生まれ変わります。現在、宇都宮大学環境改善学生サポーター(ECHO)と協力して、大学内のほぼ全てのゴミ箱の近くに割りばし回収BOXを設置し、学生や教職員に回収をお願いしています。また、定期的に回収ボックスの清掃も行っています。



割りばし回収ボックス

#### 2. Dappy!!企画

現在、生協で販売されているオリジナル弁当の容器には『リ・リパック』というリサイクル可能な容器が用いられています。宇都宮大学内では、『Dappy!!』(ダッピー)という愛称で呼ばれています。このDappy!!の認知度および回収率を向上させるために5月と12月に企画を行いました。5月の企画では新入生を、12月の企画では在校生を対象とし、多くの学生が企画に参加してくれました。



Dappy!!

#### 3. グリーンカーテン

夏の期間中は、食堂利用者に少しでも涼んでもらう目的で、日差しを遮るグリーンカーテンの設置を行っています。

平成28年度は、ヘチマとアサガオを植えました。順調に成長し、日陰の効果も見られ好評でしたので、平成29年度は混雑の激しくニーズの高い麺売り場付近に場所を移し、見た目にも涼しさを演出するアサガオとフウセンカズラを選びました。また、活動状況を広く知ってもらうために成長状況をTwitterのC.C.S.公式アカウント(@udai\_CCS)にて公表しています。



平成28年度の公表の様子